

島嶼防衛ですすむ

沖縄離島への自衛隊配備計画

山本みはぎ

2013年12月に「防衛計画の大綱」が出され、その中で、中国の軍備拡張や北朝鮮の軍事的挑発をもって「我が国の安全保障環境の変化」を理由に「積極的平和主義」を挙げて、自衛隊の再編、強化が進められています。そのひとつが、対中国をにらんだ「島嶼防衛」です。昨年4月に発表された、新々ガイドライン（日米防衛協力の指針）でも「中国の海洋進出の活発化で脅威が高まっている」とし、「島嶼防衛の日米共同作戦」が盛り込まれ、自衛隊が「島嶼奪回作戦」を実施し、米軍が「支援や補完作戦」を行うと具体的な分業まで決められました。いま、沖縄では、辺野古の新米軍基地の建設が強行されていますが、自衛隊も日本の最西端の与那国島、宮古島、石垣島などへの新たな配備が進められようとしています。その実態をみてみます。

島の振興のために自衛隊誘致を防衛省に働きかけです。自衛隊の配備によって、保証金2億円の他、町有地の借地料として毎年1千500万円が支払われるといいます。

宮古島

宮古島への配備計画は、地对空・地对艦ミサイル部隊と警備中隊など800人の規模を島の2ヶ所に配備するとしています。配備予定地の千代田カントリークラブは県立公園の予定地であり、もうひとつの大福牧場



琉球新報2015年05月12日より

立公園の予定地であり、もうひとつの大福牧場

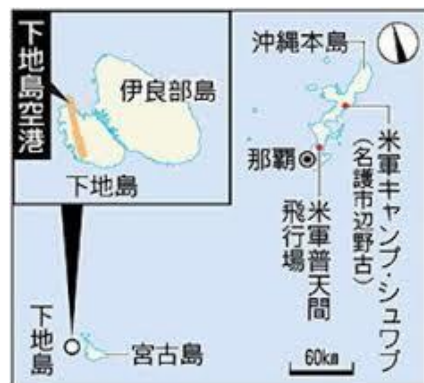
一帯は市の水源地にもなっている地域で水質汚染も心配もされています。高野港漁港の周辺を着上陸訓練場として整備することも検討されているといます。配備されるのは水陸機動団で、離島などを占領されてしまった場合に上陸し奪還をする専門部隊です。中心的な装備は水陸両用車で、長崎県佐世保に拠点を置き、第1連隊から第3連隊で編成し、一連帯700人~900人規模になるということです。すでに、アメリカ海兵隊との合同演習「アイアインフィスト」、三自衛隊が参加した統合演習「ドーンブリッツ」で訓練を行っています。陸上自衛隊が初参加した、2014年の環太平洋合同演習では、アメリカ海兵隊と2国間で水陸両用戦の訓練を実施しています。

隣接する伊良部島の3000mの滑走路を持つ下地空港の航空自衛隊による活用の動きも注目しておかなければなりません。宮古島と伊良部島間は伊良部大橋で結ばれました。下地空港は民間のパイロットの訓練空港として建設されたが、利用の中止から今後の活用のあり方が検討されています。過去に米軍機の飛来などもあり、軍事利用に転嫁されるのではないかと懸念は常にありましたが、琉球政府や県が国と交わし



与那国島

日本最西端の与那国島は、台湾との距離が100km強で、人口は約1,500人。この小さな島に、沿岸監視部隊(対空・水上監視レーダーを運用した情報収集の任務)の自衛隊員約150人が常駐します。昨年2月、自衛隊配備の是非を問う住民投票が行われましたが、残念ながら誘致賛成派が多数という結果になり、自衛隊の配備は進められています。与那国島への自衛隊配備は、2009年に外間町長が



た「屋良覚書」（1971年）と「西銘確認書」（79年）で、軍事利用を拒否していることを盾にしました。今後の活用をめぐる県は自治体との協議が続いていますが、航空自衛隊が活用しないよう注目していかなければなりません。

石垣島

昨年5月、防衛副大臣が市長を訪問し、配備に向けた調査協力を要請しました。配備される部隊は緊急時の初動対応に当たる警備部隊、ミサイル部隊の地対空誘導弾部隊、地対艦誘導弾部隊です。更にヘリコプター部隊も配備される計画としており、ヘリポートも建設されることとなります。陸上自衛隊は2018年には、オスプレイを配備する計画があり、陸上自衛隊石垣基地に配備されることも想定されます。規模は500～600人程度とされ、配備候補地として市中央部の市有地とその周辺の地区が上がっています。



与那国

「バンタ ドゥナンチマ カティラリヌン！」与那国島の明るい未来を願うイソバの会 + 与那国島の自衛隊誘致に反対する住民の会
イソバの会より活動支援カンパのお願い！
振込先はこちらです。

郵便振替 17010-4384021

銀行振込[普通] 店番 708

口座番号 0438402

口座名義

与那国島の明るい未来を願うイソバの会

isobanokai@gmail.com

宮古島

止めよう「自衛隊配備」宮古郡民の会

連絡先 090-9784-1545

090-9785-8977

※署名活動を行っています。

<https://www.facebook.com/nojjeitaimiyakojima/>

郵便払込口座 01770-5-143801

止めよう「自衛隊配備」宮古郡民の会

奄美大島に対しても、防衛副大臣が訪問し、陸上自衛隊警備部隊の配備を正式に要請した。550人規模で沿岸警備隊と地対空、地対艦ミサイルをそれぞれ配備するとしています。

配備計画に反対しましょう

こうした動きに対して、地元で配備に反対の動きが活発化しています。そもそも、本土のマスコミは沖縄の辺野古のことなどほとんど報道しませんが、それにも増して離島への自衛隊配備の問題は更に報道しません。安保法制＝戦争法が強行採決され、中国との緊張関係が続く中、自衛隊という軍事組織を配備することがどういう結果をもたらすかは、沖縄戦が如実に示しています。配備計画のある宮古島では、3万人の日本兵が常駐し、激しい艦砲射撃や食糧難による餓死などにより、軍人や住民が死亡しました。いずれの地域にも住民の反対運動が起こっています。安倍政権による軍事による「積極的平和主義」の具体的な展開が進められるこの地域の自衛隊配備の問題は、一地域の問題ではありません。私たちの出来ることは少ないかもしれませんが、動きに注目し反対の意志を示していきましょう。

石垣島への自衛隊配備を止める住民の会

沖縄県石垣市登野城 72

八重山地区労働組合協議会気付

※署名活動を行っています。

琉球弧の軍事基地化に反対するネットワーク

<http://ryukyuheiwa.blog.fc2.com/archives.html>

※上記のサイトから石垣島の署名は検索できます。

